

限無之に付、無油斷様に申付候事。

一、水廻宜様に可仕事。

但、我儘に水取込不申、一村一統に無油斷可相心得事。

一、御改作之御法に而、一村之立毛無甲乙様に仕儀第一に候條、其心得可仕候。但、人手無之者病痛等に而、野々茂難罷出者於有之は、村中より介抱仕可申事。

一、草修理等不情者於有之は、早速縮仕可及斷事。

一、早稻追付致出來候間、給費無之様爲相心得、小百姓・妻子共々茂申聞、儉約を第一に爲仕、衣類等に至迄御法を急度相守候様可申付事。

一、步入之儀無油斷相心得、斗増候様爲仕可申事。

一、當暮皆濟之儀、唯今より心懸、他村他郡見合不申、早速秋縮之御請書付十村に指出可申候。當年之儀は小賣米・御貸米被仰付儀候得ば、猶更難有奉存、皆濟を急ぎ可申事。

一、追付草茂取拂可申候間、來年之改作仕入を無油斷爲相心得可申候。來年之儀唯今より心懸、養用意も仕、冬に至候而は人馬之はき物迄も拵置、春に至また雪有之内は、來秋之繩・俵を拵、雪消間より荒起を仕候様心懸候得ば、作方

丈夫に罷成管候條、冥加之程爲失申間敷事。

一、御改作之御法は、難有儀何茂存通に候。他國には年免を以、出來之多少により被取立候得共、於御國は定免を以收納皆濟仕候得ば、過分之取得候而茂、其分は人々之徳用に罷成、御高を支配仕候御影に而、妻子も相應に相暮申儀に候得ば、此所を難有奉存、難澁仕候時分御貸米借請申者は、返上之儀を第一に心懸申儀、人間之冥加を可存根元に候。難澁仕候得ば、引免・御貸米に而御介、豊年には何程作徳有之候而茂、定免之外は收納不被仰付儀を、晝夜不失情を爲出可申事。

一、拵所は第一、改作第二に、拵油斷爲仕申間銷事。

一、川端・鴻端村々自普請を爲仕、一株も損失無之様に爲心懸可申候。百姓手に難及所は、定檢地奉行遠見分、御普請も被仰付候へば、公儀に寄懸り、自普請も不仕儀は沙汰之限に候條、隨分無油斷、川除等損不申様心掛可申候事。

一、毎年申渡候通、手入がましき事無之様に、急度末々迄爲相守可申候。此儀申渡置候得共、手入等有之由及承候に付、陰聞茂爲仕候條、相知候はゞ曲事可申付事。

一、改作方之儀、未可申渡儀多有之候得共、事永に成候故申殘候條、諸事十村より申渡儀を嚴重に相守可申候。十村には正月十七日於御算用場、御奉行・御横目同座に而年中之儀を申渡置、一村切に而は肝煎・組合頭立置申儀に候得ば、於村々は肝煎共大事之役人に候條、無油斷相勤、若蟻申者於有之は、早速十村に斷可申事。

### 三四 所々奉行附田地之事

草高 能美郡

一、六百四拾六石四斗五升貳合 湊 村

同 石川郡

一、五百七拾四石七斗五升 本 吉

同 同 松 任

一、貳百七石九斗三升三合 同 同

同 同 宮 腰

一、六百八拾四石 磯波郡

同 今石動

一、貳百四拾八石六斗三升八合 今石動

同 同 城 端

一、貳百六拾三石壹斗三升六合 射水郡 見

同 同 氷 見

一、貳百四拾七石八斗貳升六合 氷 見

### 三五 郡名等改稱之事

覺

一、河北郡 今度村御印に 加賀郡

一、利波郡 同 磯波郡

一、氷見庄 同 射水郡

一、羽喰郡 同 羽咋郡

一、鹿嶋郡 同 能登郡

右之通御座候。向後知行所附、村御印之通に郡付可仕候哉。但如跡々郡付可仕候哉。

村御印之通に改、郡付文字書替可申旨被仰出也。

(寛文十二年) 癸五月四日 岡嶋五兵衛

一、加賀郡は河北郡